

製品名: シンタキシン 1 (リン酸化 Ser14) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05508**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	35kDa

抗原情報

遺伝子名	STX1A
別名	STX1A; STX1; Syntaxin-1A; Neuron-specific antigen HPC-1
遺伝子 ID	6804.0
SwissProt ID	Q16623
免疫原	抗血清は、ヒトシンタキシン 1A の Ser14 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

背景

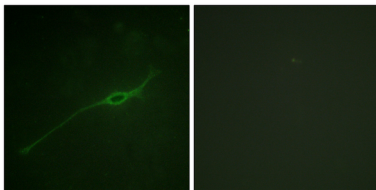
この遺伝子はシンタキシンスーパーファミリーのメンバーをコードします。シンタキシンは神経系特異的なタンパク質であり、シナ

プス小胞とシナプス前細胞の細胞膜とのドッキングに関与しています。シンタキシンは、C末端に単一の膜貫通ドメイン、SNARE (可溶性 NSF (N-エチルマレイミド感受性融合タンパク質) 接着タンパク質受容体) ドメイン (H3として知られる)、およびN末端に調節ドメイン (Habc) を有しています。シンタキシンはカルシウム依存的にシナプトタグミンに結合し、C末端のH3ドメインを介して電位依存性カルシウムチャネルおよびカリウムチャネルと相互作用します。この遺伝子産物は、イオンチャネルの制御とシナプス開口放出における重要な分子です。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2009年9月],疾患: STX1A のハプロ不全は、ウィリアムズ症候群 (WBS) という稀な発達障害にみられる特定の心血管系および筋骨格系の異常の原因である可能性がある。これは、染色体バンド 7q11.23 の遺伝子が関与する連続遺伝子欠失症候群である。機能: シナプス前活性領域におけるシナプス小胞のドッキングに関与している可能性がある。神経伝達物質のエキソサイトーシスにおいて重要な役割を果たす可能性がある。類似性: シンタキシンファミリーに属する。類似性: 1つのt-SNAREコイルドコイル相同ドメインを含む。サブユニット: SNAP25、VAMP2、およびSTX1Aを含むSNAREコア複合体の一部である。この複合体はCPLX1に結合します。SYTL4およびSTXBP6に結合します。STX1AおよびSNAP25との三元複合体を形成します。OTOFと相互作用します (類似性による)。VAMP8およびSNAP23との複合体を形成します。VAPAおよびSYBUと相互作用します。組織特異性: アイソフォーム1は、胎児の脊髄および神経節、および成体の小脳および大脳皮質で高い発現を示します。アイソフォーム2は、心臓、肝臓、脂肪組織、骨格筋、腎臓、および脳で発現します。、

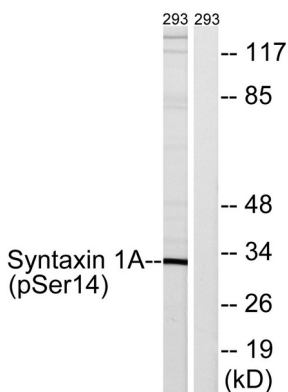
研究分野

小胞輸送における SNARE 相互作用;

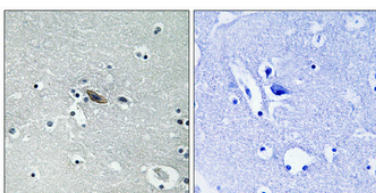
画像データ



NIH/3T3 細胞における Syntaxin 1A (リン酸化 Ser14) 抗体を用いた免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



293 細胞ライセートの Syntaxin 1A (リン酸化 Ser14) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。

